



Title	ニセコ町でのムクゲネズミの確認と生息環境
Author(s)	市川, 秀雄
Citation	北大植物園研究紀要, 2, 66-68
Issue Date	2002-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/32812
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_p66-68.pdf



ニセコ町でのムクゲネズミの確認と生息環境

市川 秀雄

はじめに

ニセコ町市街地に近い社有地において 2001 年 7 月にムクゲネズミ (*Clethrionomys rex* IMAIZUMI, 1971)を確認したので報告する。またその生息環境について植生を中心に考察したい。

*C. rex*は北海道のごく限られた低地から高山帯までの比較的湿潤な環境に生息し、個体数も少ないとされていて、環境省レッドデータブックの準絶滅危惧 (NT)に指定されている。道内の分布は大雪・日高山系、天塩町および宗谷支庁の利尻、礼文島とされていた。NAKATA (2000) は 1983 年から 1998 年まで北海道内で確認された *C. rex* の採集地および採集個体数を表および図に示している。その中に後志支庁南西部黒松内町歌才での確認が記載されているが、今回採集された地域も同じ後志支庁南部に位置する。

この確認はニセコ町ミズバショウ調査区におけるネズミ類生息予備調査で、結実期におけるミズバショウ球果の捕食者の同定を行ったときのものである。

なお、学名は日本の哺乳類 (阿部永監修 1994) に従った。

調査地の概要と植生

ニセコ町の地形は町内のほぼ中央部を尻別川が蛇行して流れ、沖積地を形成している。山間部を除くと緩傾斜地が続き、肥よくな農耕地が多い。調査地はニセコ町中心街より西方約 1 km のところで、標高 95m に位置する社有地である。

調査地域を取り巻く環境は、おおよそ 3 つに分けることができる。上部に平坦で幅約 40m のカラマツの人工林があり、次に東方向に急傾斜で幅約 60m のミズナラやエゾイタヤ、ハルニレなど落葉広葉樹の自然林が続く。自然林の林床はオオバザサが優占するが、春にはカタクリの群落もみられ、フッキソウ、ヒトリシズカ、エゾアジサイなどの植物がある。自然林の林冠被度は 80% で、草本被度は 90% である。調査地の中央部はほぼ平坦な湧水湿地で、自然

林斜面との境に沿って側溝跡があり、農耕地であった可能性が窺える。木本層はヤチダモ、オニグルミが少し見られる。草本層はミゾソバ、カササゲが優占し、他にはオニシモツケ、オオバセンキュウ、特に湿った所にはミズバショウ、エゾノリュウキンカなどが見られる。また湿地北側縁の少し乾燥した場所ではススキ、カモガヤが優占する。湧水湿地の草本

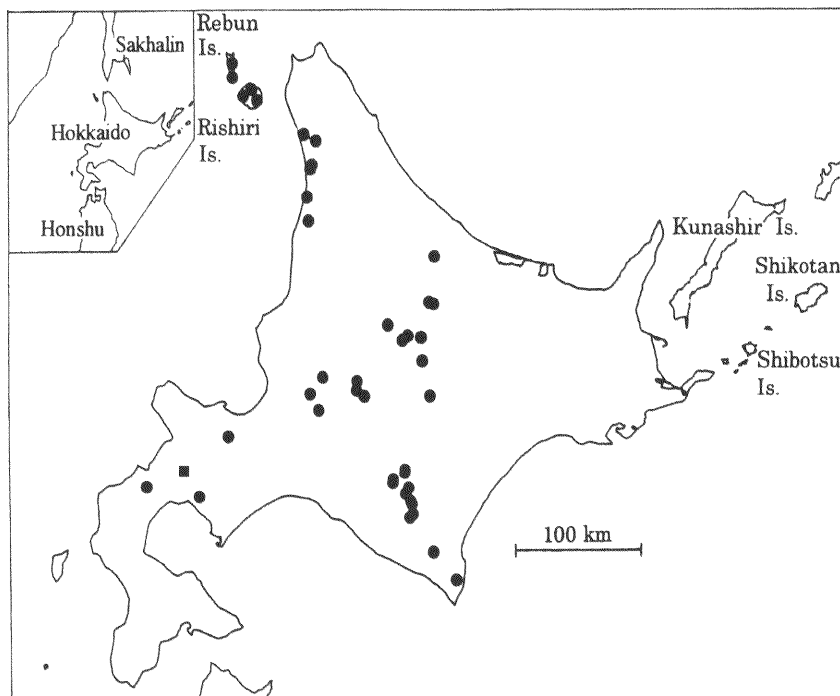


図 1. 北海道におけるムクゲネズミの採集地

NAKATA (2000) より転載、■は採集地の追加を示す

被度は約 90%である。さらに北側にはケヤマハンノキやオノエヤナギなどの河畔林があり、林床はオオバザサやエゾイラクサ、エゾノコンギクなどが見られる。

調査方法と結果

調査は中央部のミズバショウ調査区（富士田，1996）を中心に自然林内も含めた範囲で、2001 年 7 月 20 日に 10m 間隔 6 行 6 列の格子状に箱型のワナをかけた。ワナは昼夜を通したまる一日で、餌は使用せずに翌朝回収した。それぞれの環境は A1-A3-F1-F3 を囲む範囲は急傾斜の自然林で、A3-A6-C3-C6 を囲む範囲は比較的乾いておりオオバザサが優占している。C3-C6-F3-F6 を囲む範囲は湿地部でミゾソバ・カササゲ群落やミズバショウ群落を含む。

調査地内のネズミ類の確認はアカネズミ (*Apodemus speciosus*) 13 個体と *C. rex* 1 個体であった。*A. speciosus* は A1-A6-F1-F2-C3-C6 を囲む範囲と F6 で、*C. rex* は F4 で採集され、*A. speciosus* は自然林と比較的乾燥したササ原で採集され、*C. rex* はミゾソバなどが多い湧水湿地内であった。ここではこの二種の他にネズミ類は確認されなかった。またネズミ類以外の小哺乳類も確認されなかった。

この採集地の F4 は湿地性植物群落の一角で、湧水湿地全域のほぼ中程になるが、今回調査した方形区の端にあたり、標高 95m のところであった。F4 の植生はミズバショウ群落周辺の植物相とは違い、ミゾソバ、カササゲが優占している。他にはエゾゴマナ、オニシモツケ、オオイタドリなどの高茎草本やエゾシロネ、オニナルコスゲ、ビロードスゲなどが見られる。この地域の植生について、また方形区の植物相についておもしろいものは記載したが、調査地全体の植物相については加藤（卒業論文，2002）が詳しく報告している。

考察

道内の *C. rex* の確認については NAKATA (2000) が詳しく報告していることは前述したところである。おなじ道南地方の黒松内、虻田においては標高 170~250m の山地帯の広葉樹林で確認されている。また日高山脈のポロシリ岳では 1900m の標高の高いところでの報告もある。阿部永氏（談）によると、*C. rex* は生態的に必ずしも湿潤な環境が生息場所であるとは限らないが、大雪山の勇駒別を例にとると *C. rex* の生息地はオオイタドリがあるような湿潤な環境ではあった。しかしそこでは競争関係にあるエゾヤチネズミ (*Clethrionomys rufocanus bedfordiae*) が好まないところに閉じこめられている劣勢な種であるように考えられた。また道北地方の天塩町においては、*C. rex* は沢道から沢斜面なかほどにかけての湿潤な場所で多く捕獲され、*C. r. bedfordiae* とは生息場所が分かれていた (NAKATA, 1995)。一方、今回のニセコ町では丘陵地の落ち込んだ、川と農耕地に挟まれた狭い空間の湧水湿地内であった。ここでは競争関係にある *C. r. bedfordiae* が確認されていないことは重要である。

本調査を実施した時期、高茎草本の広葉植物の成長に伴う閉度が上がり且つ湿潤な環境を保っており、こういった高茎草本

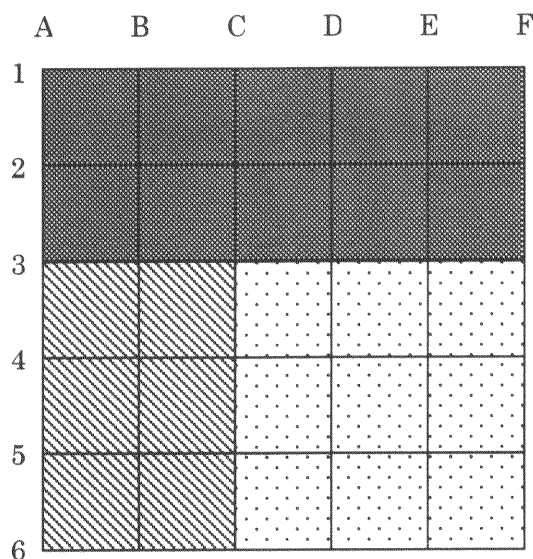


図 2. 調査地の方形区

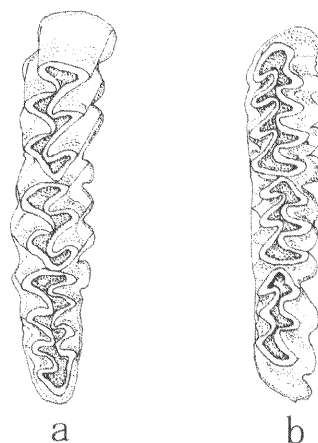


図 3. *C. rex* の a. 左上顎臼歯・b. 左下顎臼歯の配列
ニセコ町富丘産。♀。頭胴長：111 mm。尾長：45 mm
後足長：21 mm。頭骨最大基底長：24.7 mm。

があり地表面の植生密度が低い湿潤な空間がニセコにおいても、*C. rex*の生息場所になるようだ。しかしながらこの湧水湿地内で確認された *C. rex* は今回 多く確認された *A. speciosus* とは生態が大きく異なるので共存上問題は少ない。実際に *A. speciosus* の季節的出現率には大きな変化があるし、生息環境も一定でない。ここでは *C. r. bedfordiae* が確認されなかったことが重視されるが、今後他の動物相をも把握し、この調査地における *C. rex* の生息場所の位置付けをしていく必要がある。

謝辞

本稿について北海道立林業試験場中田圭亮氏には資料の提供ならびに図の転載に快くご承諾を頂いた。元北海道大学農学部教授阿部永氏には頭骨の同定をおこなって頂いた。両氏には本稿をまとめるにあたって多大なご教授を頂き厚くお礼申し上げる。北海道大学北方生物圏フィールド科学センター助教授富士田裕子氏、同大農学部生物資源科学科4年加藤ゆき恵氏には植生について資料の提供を頂いた。また山崎真実氏（現、札幌市博物館活動センター）には調査と標本作製の協力を頂いた。この調査の機会を与えてくださった北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園教官・職員・学生諸氏に厚くお礼申し上げる。

引用など参考文献

- 阿部 永 1977. 北海道産野ネズミ類の種名について. 野ねずみ, No.142: 69-71. 北海道森林防疫協会
- 阿部 永 1984. 北海道産ネズミ類の分類. 北海道産野ネズミ類の研究 (太田嘉四雄編著): 1-20. 北海道大学図書刊行会
- 阿部 永 2000. 日本産哺乳類頭骨図説. 279pp. 北海道大学図書刊行会
- 今泉吉典 1972. 日高の陸棲哺乳類. 一とくに固有のヤチネズミ類とその起源について国立科学博物館専報. 第5号: 131-149. 国立科学博物館
- 太田嘉四夫編著 1984. 北海道産野ネズミ類の研究. 400pp. 北海道大学図書刊行会
- 加藤ゆき恵 2002. ニセコ町富丘の湧水湿地とその周辺の維管束植物相. 北海道大学農学部生物資源科学科・植物園. 卒業論文
- 金子之史 1994. ネズミ目ネズミ科. 日本の哺乳類 (阿部永監修). 東海大学出版会
- 中田圭亮 1978. 大雪山低標高地でのムクゲネズミの確認と一生態知見. 哺乳動物学雑誌. Vol. 7, No. 4: 231-232. 日本哺乳動物学会
- Nakata, K 1995. Microhabitat selection in tow sympatric species of voles, *Clethrionomys rex* and *Clethrionomys rufocanus bedfordiae*. Journal of the Mammalogical Society of Japan 20:135-142.
- Nakata, K 2000. Distribution and habitat of the dark red-backed vole *Clethrionomys rex* in Japan. Mammal Study. 25:87-79. The Mammalogical Society of Japan
- 富士田裕子 1996. 平成8年度石狩川改修工事の内環境調査検討業務報告: 48pp. 財団法人北海道開発協会